

再生素材を活用した製品等に関するアンケート調査結果詳細

【調査概要】

- ・ 調査期間：4月21日（土）・22日（日）
- ・ 調査場所：墨田区立おしなり公園（東京スカイツリー直下にある北十間川の親水公園）
- ・ 主催：活かそう資源プロジェクト（環境省）
- ・ 共催：墨田区
- ・ 協力：東京造形大学
- ・ 調査方法：墨田区立おしなり公園の利用者に対して、活かそう資源プロジェクトスタッフと東京造形大学学生がアンケート用紙（直筆記入）を配布し、回収
- ・ サンプル数：737 サンプル

<内訳>

【性別】男性：346、女性：379、未回答12

【年代】10代：59、20代：161、30代：151、40代：138、50代：88、60代：95、70代以上：45

【居住地】墨田区内：98、墨田区外：636、未回答：3

【調査結果】

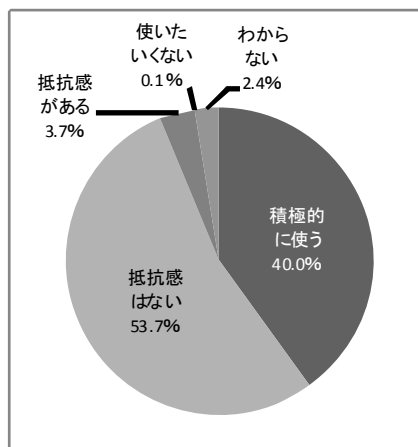
■「回収したPETボトルを再生したPETボトルの使用消極派」3.8%、「リサイクル素材を利用した家電の使用消極派」3.7%と、リサイクル製品への抵抗感はほとんどない！

「回収したPETボトルをリサイクルして製造したPETボトル」を「抵抗感がある」（3.7%）、「使いたくない」（0.1%）を合わせた「使用消極派」は3.8%にとどまりました。

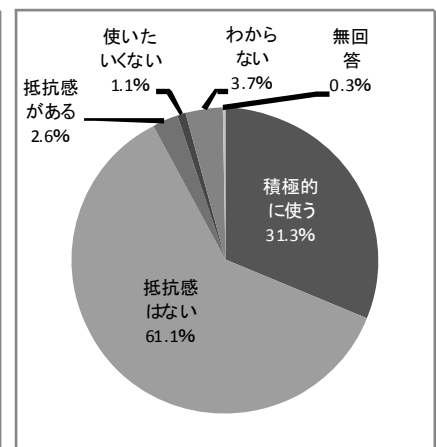
また、「廃プラスチックからリサイクルした素材を利用した家電」を「抵抗感がある」（2.6%）、「使いたくない」（1.1%）とした「使用消極派」は3.7%にとどまりました。

リサイクル製品への抵抗感

はほとんどありませんでした。



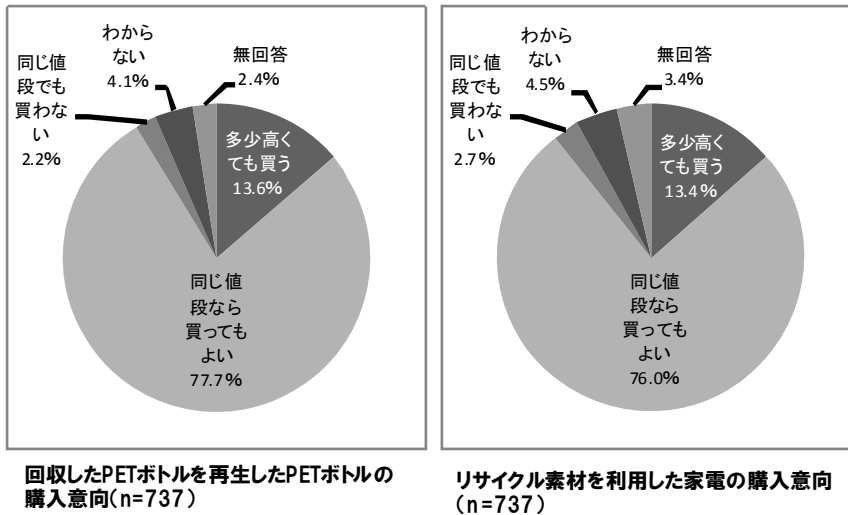
回収したPETボトルを再生したPETボトルの使用意向(n=737)



リサイクル素材を利用した家電の使用意向(n=737)

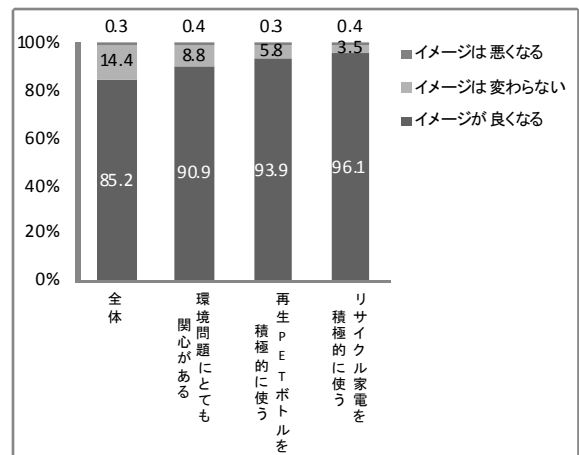
■「同じ値段でも買わない」回収したPETボトルを再生したPETボトル」2.2%、「リサイクル素材を利用した家電」2.7%と、リサイクル製品への購入に消極的な回答はほとんどない！

「回収したPETボトルをリサイクルして製造したPETボトル」を「同じ値段でも買わない」（2.2%）、「廃プラスチックからリサイクルした素材を利用した家電」を「同じ値段でも買わない」（2.7%）と、リサイクル製品の購入に消極的な回答はほとんどありませんでした。



■企業の再資源化への取組みは、企業イメージアップに大きく寄与

「企業が再資源化に取り組んだり、再生素材を積極的に商品に活用していることを知った場合に、85.2%の人が「企業イメージは良くなる」と回答。「環境問題にとっても関心がある人」においては90.9%、「再生PETボトルを積極的に使う人」では93.9%、「リサイクル家電を積極的に使う人」でも96.1%が「企業イメージが良くなる」と回答しました。

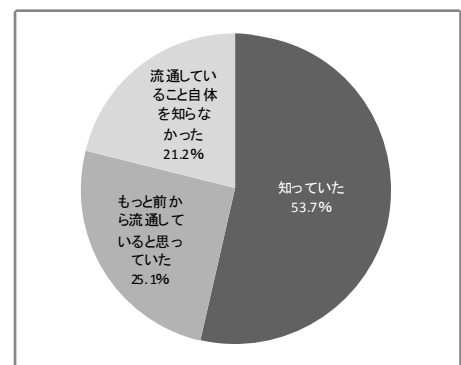


企業の再資源化への取組みに対するイメージ
(全体:n=737、環境問題にとっても関心がある:n=274、再生PETボトルを積極的に使う:n=295、リサイクル家電を積極的に使う:n=231)

■最近、回収したPETボトルから作られた再生PETボトルを使った商品が流通し始めたことについて、「もっと前から流通していると思っていた」25.1%、「流通していること自体知らなかった」21.2%と、再生PETボトル商品流通への認知が不足

「回収したPETボトルから作られた再生PETボトルが流通し始めたことを知っている」と回答した人は53.7%と約半数でした。一方、2割以上の人々が「もっと前から流通していると思っていた」(25.1%)と、回答しており、約2割の人が「流通していること自体を知らなかった」(21.2%)と回答しました。

再生PETボトルを使った商品の流通(販売)が最近拡がってきた動きであることが、消費者には十分伝わっていない現状がうかがえました。



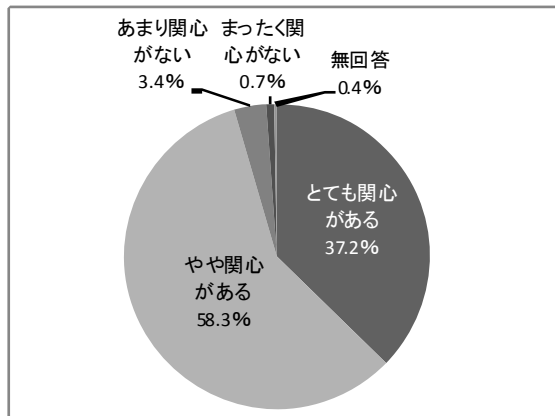
再生PETボトルの認知度(n=737)

■9 割以上が「環境問題に関心がある」と回答する一方で、約3割が「PETボトルをはじめ、プラスチック製品のほとんどが海外から輸入した石油を精製して作られていることを知らない」と回答。

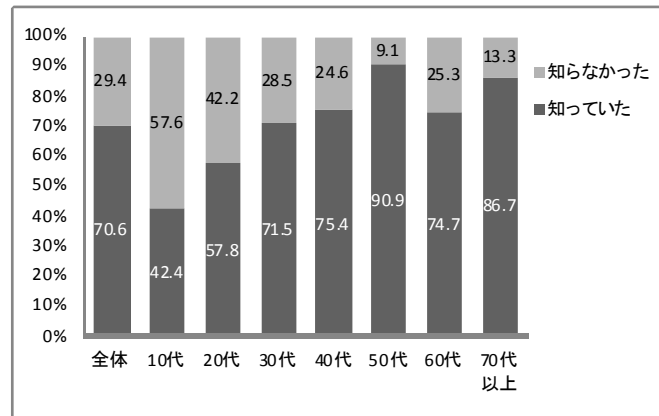
環境問題への関心度をたずねたところ、「とても関心がある」(37.2%)、「やや関心がある」(58.3%)を合わせると、95.5%が「環境問題に関心がある」と回答しました。

一方、「PETボトルをはじめ、プラスチック製品のほとんどが海外から輸入した石油を精製して作られている」ことを「知らなかった」と回答した人は29.4%、「環境問題に関心がある」と回答した人でも「知らなかった」と回答した人は28.8%と約3割にも上りました。

年代別に見ると、特に若い世代で認知率が低く、10代では57.6%、20代では42.2%が「知らなかった」と回答するなど、「資源」の基礎的な理解が十分でないことがうかがえました。



環境問題の関心度(n=737)



PETボトルをはじめ、プラスチック製品のほとんどが海外から輸入した石油を精製して作られていることへの認知度 (n=737、年代別のサンプル数は調査概要を参照)